令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大谷中学校】

① 今年度の目標と学力向上策

重点的に育成する資質・能力	【知識・技能】 ・生徒自らがICTの適切な使い方を学び、効果的に使うことができる。 ・自分に合った学習方法で、主体的に粘り強く学習に取り組むことができる。 ・チャレンジスクールや学習サポート機関を活用するなど、地域と連携した学習活動を利用することができる。
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	・習熟度に応じたプリントを準備する等、個別最適な学びの実現に努める。【毎日】 ・理数科目の支援強化を目指し、スクールアシスタントが授業に入り、個別指導等のサポートをする。【毎日】 ・テスト前に学習会や質問会を実施する【定期テストごとに実施】 ・ドリルパークやスタディサプリなどを活用する機会を増やしていく。また、必要に応じて、紙との併用を行う。【長期休業期間中】

② 全国学力・学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	・全体的に、国語の学習指導要領の内容における「知識及び技能」の全項目と「思考力、判断力、表現力等」のうち「C読むこと」、英語の「読むこと・書くこと」、数学の評価の観点における「知識・技能」の項目に課題が見られた。 ・一方で、国語の「A話すこと・聞くこと」や「B書くこと」や英語の「聞くこと」、数学の「思考・判断・表現」などの表現をするような設問では良い結果が見られた。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・読み取ることや論理的に解を導くために必要な基礎的な知識及び技能の習得に課題がみられる。 ・身についている知識及び技能を活用して、話したり、書いたりすることなどができている。

③ 中間評価

学力向上策の実施状況	評価（※）	・基本的には学力向上策について実施することができている。より効果的にするために、個別最適な学びに必要な習熟度に応じた指導や学習会等の実施を行っていく。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	（変更なし）	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤ 年度末評価

学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）